

地域から

次世代リーダーの養成も

聞いて！

少子化や教員の働き方改革で、中学校や高校の部活動は存続の危機にあると言われる。世界的にも珍しい存在だが、改革は待たない状況だ。現役教員が中心となって設立されたNPO法人「部活動リノベクエストLabo」（大阪府箕面市）理事長の藤田晋太郎さん（41）に、「受け皿（ハブ）」に終わらない部活動の「リノベーション」のあり方について語ってもらった。

【まごめ・山口敬人】

法人設立を思い立った理由は、2009年から11年間、大阪府立高校の保健体育の教員で野球部の監督を務めていました。高野球をやっていたこと

もあり、部活動に強い思い入れのある「部活動大好き教員」、略して「B DK」でした。ただ初任校が学校再編で閉校になったうえ、他の学校でも定員割れでなかなか部員が集まらな

NPO法人「部活動リノベクエストLabo」



メッセージを掲げるNPO法人「部活動リノベクエストLabo」理事長の藤田晋太郎さん（大阪府箕面市）

い。府立高校の多くがそういう状況になる中、内側から変えることは難しいと。学校の外に出て取り組まないと変革は実現しないと考えられています。

教育現場を離れた後、ベンチャー企業の立ち上げに携わった。

部活動支援アプリの開発を手掛ける会社でしたが、アプリはあくまでテクノロジ。結局、変えるためには多くの人を巻き込む仕組み、組織を作ることが必要だと考え、部活動や公立高校の存続に危機感を持つ現任教員6人とともにNPO法人を設立しました。

当面の目標は、

◆中学校の部活動の地



◆NPO法人「部活動リノベクエストLabo」
2023年1月設立。所在地・大阪府箕面市坊島4の5の20分のおキューズモールWEST1の2F。ホームページは（https://renovquest.org/）

箕面東高校で6月16日に開催したイベント「潜在能力覚醒Labo」には多くの子どもたちが参加した一部活動リノベクエストLabo提供

域移行という方針がスポーツ庁から示されています。できれば25年度内に法人の事務局を置く箕面市の行政、教育委員会、かつて私が勤務した箕面東高校、支援していた地元の企業をバックに、今後のモデルとなる地域スポーツクラブを設置する方向で動いています。

潜在的に何とかなるだろうと考える人が教員も含めてまだまだ多く、既存の概念を突き破る現在の活動の障壁となっています。今後、丁寧な広報が鍵になってくると思っています。

現在、法人の会員は教員やスポーツトレーナー、企業人の約60人。そうした多様なメンバーを生かしながら、指導者を確保しやすい野球や陸上、サッカー、バスケ、トボール、バレーボール、吹奏楽あたりから始めることを検討しています。ただ、部活動の地域移行の受け皿がメインではありません。「それまでできますよ」というのがポイントです。

◆将来的に目指すのは、

◆かつて自身も起業を考えたことがあります。そうした目で見ると、日本固有の文化ともいえる部活動、少子化で使われなくなった立派な学校施設、熱意を持った教員などを掛け合わせれば、新たな価値を生み出すことができるはずだと。

◆その後の展開は、

◆会員には東京や長崎、香川、静岡などの人もいます。地域スポーツクラブの立ち上げ、運営がうまくいけば、そうした会員とノウハウを共有

◆部活動が学校外に出ることで費用負担や経済格差をどう埋めるかという問題があります。しかし、現状が一番の課題は、そもそも部活動、公立学校教育に対する

◆課題は、

◆部活動が学校外に出ることありますが、閉校になった学校施設を買い取り、部活動文化にも重きを置きつつ、アントレプレナーシップを持った子どもを育成する新たな教育の場をつくる。そんな日が来るのを目指しています。

「アントレプレナーシップで部活動維新」